

第23回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおり開催しました。

「最上小国川流水型ダムの状況」「前回の協議会における指導事項と対応」「令和6年度環境影響調査の報告」「ダム供用後モニタリング結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 令和7年3月13日（木） 14:00～15:45

2 場 所 最上総合支庁

3 出席者 7名（6名欠席）

原慶明委員長、梅田信委員（Web出席）、本登渉委員（Web出席）、伊藤欽一委員、笠原啓一委員、伊藤和久委員、伊藤秀樹委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・ 原慶明委員長 【付着藻類調査】
 - ・ アユの活性の指標として、過去にはみ跡の調査を行っている。ダム完成前の状況と比較するため、一度はみ跡調査の実施を検討してほしい。
- ・ 梅田信委員 【ダムの状況について】
 - ・ 河川内での工事を行う際は濁水対策を徹底する等、河川環境や生物への影響についても可能な限り配慮してほしい。【濁度計測について】
 - ・ 出水後の濁度が高止まりしていることについては、濁度計センサーに汚れが付着していることが要因と考えられる。その場合は出水前との差分を考慮し、濁度継続時間を評価したほうが良いと思われる。
 - ・ 着工前と工事中の比較は、得られているデータの範囲やばらつきを考えると、同程度と評価するべきように思われる。一方で、完成後の濁度変化は貯水状況や降雨状況が関与するため、より精査した分析が必要である。
 - ・ データの解析を行う際は原因と結果の因果関係を把握し、何が影響しているか考察を行うこと。
 - ・ ダムの濁度は事前の予測値と大きな乖離がなく、想定範囲内に収まっている。【その他】
 - ・ ダム完成から5年が経過し、ダム建設前からのデータが蓄積されてきたことから、全体的な中間総括の取りまとめを検討してほしい。
- ・ 本登渉委員 【魚介類調査・底生動物調査について】
 - ・ ダムによる影響で、特に問題があるようなことは無いと思われる。
- ・ 伊藤欽一委員 【ダムの状況について】
 - ・ ダム供用後、釣り客からダムの影響に関するクレームは入ってきておらず、ダムによる環境影響はほとんどないという印象を受けている。【河床状況について】
 - ・ 昨年度調査で砂分が多く見られた最上白川合流点上流において、元の状態に戻ったとあるが、継続して調査を行ってほしい。
 - ・ 河川工事の際は、大きい石を埋めずに最後に上に散らして、魚類の生息場を増やしてほしい。
- ・ 笠原啓一委員 【ダムの状況について】
 - ・ 貯水池に流れ着く流木については、木の種類や伐木か自然倒木かについても確認してほしい。
- ・ 事務局 【今後の環境調査について】
 - ・ 環境調査については、引き続きデータの蓄積が必要と考えており、令和7年度以降も調査を継続する。

【開催概況】

